

26H-pm09

インスリン自己注射適正使用を目指して～インスリンカルテによるケア一年間の成果と検証～

○廣野 慎也¹, 荒木 美也子¹, 篠崎 静子¹, 古賀 寿子¹, 入野 聖子¹,
中川 温子¹, 内山 瑞穂¹, 坂本 直大¹, 満生 純太郎¹, 三浦 宏二¹, 中原 玲子¹,
織田 圭之介¹(¹そうごう薬局)

インスリン使用患者に対する薬学的指導は、病院での自己注射指導により実施されている。調剤薬局においても、より積極的な関与をすることで、さらに確実に継続的なインスリン適正使用を担保することができると考えた。

【目的】そこで、昨年よりインスリン自己注射の適正使用を促す手法として、インスリンカルテを作成し、継続的なケアに取り組んでいる。今回は適正使用に対するインスリンカルテの有用性を検討した。

【方法】

- 1) インスリンカルテ導入時、手技において問題点の多かった項目(①～⑤)について、インスリンカルテによる指導の有用性を検証。(①「タイミング」②「つまむ」③「保存」④「注入時間」⑤「振る」)
- 2) インスリンカルテを用いた患者ケア事例抽出(改善した事例、特殊な事例、患者からの質問への回答など)

【結果】(1) インスリンカルテを用いた継続的なケアにより、上記①～⑤の問題点すべてにおいて患者の理解度の向上、行動変容など改善がみられた。(2) 改善例に加え、カルテ導入前には知り得なかった特殊事例と情報の共有化により、個々の患者に応じた的確なケアが可能になった。

【考察】今回の取り組みにより、インスリンカルテを活用したケアが自己注射適正使用に有用であることが証明できた。今後も個々に合わせた患者ケアを実現し、患者 QOL 向上に貢献するために、医薬連携のもと取り組みを評価・継続していく予定である。